

寒中お見舞い申し上げます。開館4年目を迎えるギャラリーのお正月は、比較的暖かで穏やかな日々でした。お天気誘われて、野鳥も新年の挨拶に来てくれました。ジョウビタキが例によって紋付を着て囀っています。今年は鷹も見かけました。近くの屋根にとまってあたりを窺って獲物を探している様子は、いかにも一富士、二鷹と呼ばれるにふさわしいものでした。

1月3日の朝、犬と一緒に近くの資材置き場を通りかかったら、顔見知りの庭師の大將がユンボを使って庭石をダンプに積み込んでいました。「大將、明けましておめでとう、正月早々頑張ってますね！」と声をかけたら、その土地に買い手がついたので、庭石を別の場所に運ぶために急遽働いているとのこと。

大半はもう運び終えたらしく、石垣に使う御影石と丸石が少し残っていたので、「大將、石を少しわけてくれませんか。」と言うと、二つ返事で「いいよ、すぐ持って行ってやるよ。」と返ってきました。恐る恐る「ところで値段は？」と聞いたら「なあに、たいした石じゃないからガソリン代だけでいいよ。」と。

モンダイはここからです。その日と翌日にかけてダンプが9往復、ガラガラドッカーンと地響きを立てて石を転がすと、置き場の駐車場は石だらけ。あちらの2千坪の置き場にチラホラ転がっていたように見えた石も集めれば大変な量になるのです。立派な御影石の石柱も混じって、玉石混交ならぬ庭石と雑石混交状態です。この先1年はこの石群との格闘になりそうです。

ところで、今年のギャラリーの主題は石ではなく「ミジンコ」なのです。昨年の12月14・15日の両日、ジャズ・ミュージシャンでミジンコの研究者坂田明さんがギャラリーに来てくれました。きっかけは、私共が生命の輝きとも表現できる坂田さんのミジンコの写真を見たことからです。

坂田さんはサクソ奏者として若いころ山下洋輔トリオに所属、現在はフリージャズ・ミュージシャンとしてベルリンやニューポートなどのフェスティバルに参加し、世界的に活躍しています。

一方、ミジンコの研究者としても広島大学水産学部の客員教授の肩書を持つ専門家です。ヒマラヤの氷河に出かけ、高山病に悩まされながら氷河ミジンコを採集するなど序の口で、『ミジンコ 静かなる宇宙』と題するDVDや『私説ミジンコ大全』などミジンコに関する著作もあります。

坂田さんとはこれまでに何度かパーティーなどでご一緒し、些かの面識がありました。昨年秋、ある会合の二次会で同席した折、ギャラリー稲童の話とミ

ジンコの話で盛り上がり、ギャラリーでミジンコ展をしたら面白いね、という話になりました。坂田さんは気さくに「やってみましょうか。ついでにギャラリーでの演奏会も面白いね。」と言ってくれました。

善は急げとばかり、坂田さんのヨーロッパ公演が終わるのを待つて埼玉の御自宅にお伺いしました。同行してくれたのが、同級生でギャラリー稲童協力会員の安田耕太郎君。安田君は某音響メーカーの社長を長く務めあげ、昨年ハッピーリタイアしたのですが、何と坂田さんとは音楽を通じて旧知の仲。話はとんとん拍子に運び、下見にギャラリーに行ってみようとなったのです。

12月14日、ギャラリーでは坂田さんを迎えて餅つきによる歓迎会が始まりました。餅つきでは並み居る経験者を尻目に坂田さんが大活躍、杵さばきなど堂に入ったものです。聞けば毎年御自宅で餅つきをしているのだとか。餅の後はもちろん酒と肴です。囲炉裏を囲んで「漁師」坂本匡君の釣果の魚や、鍋でおもてなし。興に乗った坂田さんはふるさと広島为民謡を披露してくれました。これが何とも言えない美声でした。平家物語を三味線に乗せて語るコンサートを開いているとは聞いていましたが、納得！

翌日は皆で真面目にミジンコ展の打ち合わせをしました。大筋まとまった打ち合わせの後は坂田さんのサクソ独演会。これは圧巻でした。幸運にもその場に居合わせた皆さんは大感激。ギャラリーに響き渡った音色は心にしみ入り、感涙にむせんでいる人も見うけられました。

ミジンコ展は5月10日（土）から18日（日）まで開催します。11日（日）午後には坂田さんによるギャラリートークとサクソの演奏を予定しています。詳しい内容はホームページでその都度お知らせします。皆様お楽しみに！

なお、3月21日（金、祝日）には、恒例の瀧月忌に合わせて小林修子さんのバイオリン・チャリティコンサートとオークションを開く予定です。

今年もこんな具合にさまざまな活動を行っていきます。どうぞご期待下さい。

ギャラリー稲童館主 植田義浩